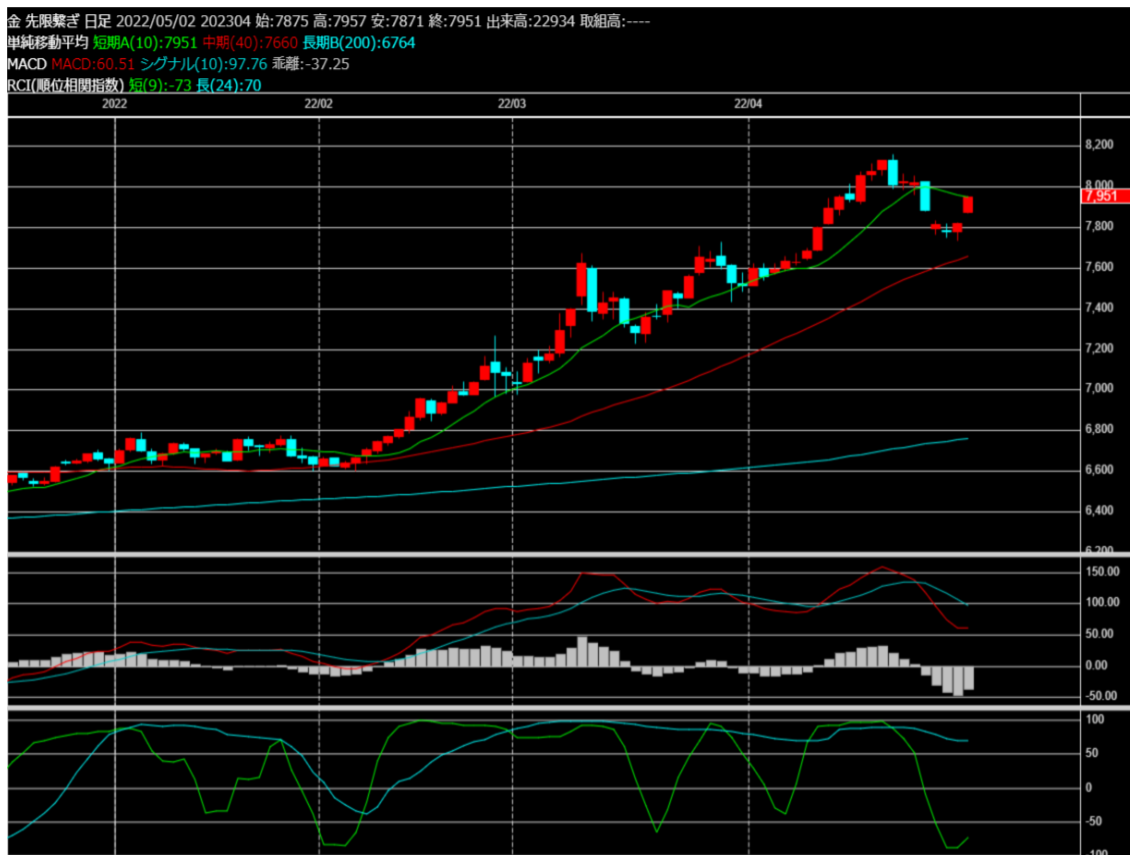


## <金標準先物、円安の要因だけで 8000 円維持は困難か・・・>



(出所：オアシス)

大阪取引所はゴールデンウィークに入り、2日と6日の取引となるが、その間には3日、4日に注目されるFOMCが開催され、市場ではパウエルFRB議長やFOMCのメンバーなどのタカ派の発言を受けFFレートの0.5%引き上げは織り込まれている。また市場の金利スワップの動向では、6月のFOMCまで1.11%の利上げまで織り込まれており、0.5%を超える利上げが示唆されるなど過度なインフレを織り込む動きを見せている。先週にイエレン財務長官は、インフレ率はピークアウトした可能性に言及するなど積極的な利上げ姿勢だけが先行している可能性も高い。そのため10年債の金利は週末には2.938%、FFレートに近い2年債金利も2.730%まで上昇するなど、金利を生まない金にとってはマイナス要因となる。また中国の北京市の感染拡大を受けたゼロコロナ政策でロックダウンの懸念が高まりを見せるなど逃避の現金化の動きも予想される。特に金標準先物も日銀金融政策決定会合を受けた円安効果もあり、8000円に近付いているが金利高に押されて戻り売りの値動きには注意したい。

### <テクニカル>

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDが下げ渋り、シグナルは下げている。RCIでも短期が反転し、長期は下げ渋るなど依然と高値追いを示すオシレーターであるが、日足が10日移動平均線で押えられるなど、戻りが止まる動きに注意したい。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,084,000 円(2022年5月2日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022年5月2日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>